

きたざわ潤子

きたざわじゅんこ

<http://oota.seikatsusha.me>

■発行／大田・生活者ネットワーク ■発行責任者／北澤潤子 ■〒144-0052 東京都大田区蒲田 4-42-3 イースタコホ 蒲田 302
■TEL 03-6424-7561 FAX 03-6424-7562 ■Eメール oota@seikatsusha.net ■HP <http://oota.seikatsusha.me>

きたざわ潤子プロフィール (きたざわ・じゅんこ)

■高知県生まれ 大田区池上 2 丁目
在住 ■東洋英和女学院短期大学保育
課卒業 ■日本女子大学通信教育課程
家政学部児童学科卒業 ■幼稚園 16
年間勤務(めぐみ幼稚園、こひつじ幼
稚園他) ■2011 年～大田区議会議員
(現在 2 期目) ■子ども文教委員会、
防災・安全対策特別委員会

第3回定例会と決算特別委員会が終了しました。

大田・生活者ネットワークは、2015 年度大田区一般会計歳入歳出
決算の認定に反対をしました。

理由は、区民の基礎的ニーズに十分こたえてはいない、と判断し
たからです。

みんなで活動できる施設作りには、みんなで意見を！

■区の公共施設 573 のうち、60 パーセント以上の公
共施設が築 30 年以上経過しており、今後 20 年で多
くの施設が更新時期を迎えることとなります。

大田区は「大田区公共施設適正配置方針」を作りま
したが、その中で今後の施設整備の基本的な考え方を「施設機能の集約、複合化、多目的化、施設の総
量抑制」と示しています。

■使いやすい施設にするためには、計画段階から、
設計に至るまで利用者・当事者の視点が入ることが
重要で、そのためには地域住民や区民活動団体が参

画できる仕組みを作るべきだと提案してきました。し
かし大田区の答弁は“適時適切に対応する”というも
ので、丁寧さが感じられません。そんな大雑把なもの
でよいのでしょうか。

■例えば、そのプロセスが十分ではなかったと思われ
る事例は、大田区総合体育館です。高齢、障がいがあ
るなど多様な方の利用を考えれば、エレベーターが狭
く、リクライニングタイプの車椅子はぎりぎり入るか
入らないかの狭さは問題です。また車椅子のまま利用
できるシャワールームの鏡は、大人が立って見る高い
位置についており、多目的トイレの数も少なく、お
むつ替えや授乳といった設備も不十分で大きなイベ
ントではかなり厳しいと聞いています。

■複合化・多機能化であれば、なおさら多世代のニ
ーズ、時代のニーズ・地域住民のニーズに合わせた活用
方法の検討も含めて地域の関係当事者をきちんと組
み込んで施設整備を進めるべきです。

